

2. 3つのシナリオ

(1) 原発依存度を下げ、化石燃料依存度を下げ、CO₂ を削減できるシナリオを用意する

原子力の安全確保、エネルギー安全保障の強化、地球温暖化問題解決への貢献、コストの抑制と空洞化防止という4つの視点を踏まえれば、原発依存度を下げ、化石燃料依存度を下げ、CO₂ を削減するというシナリオを用意し、その中でも経済性という要素も加味して、エネルギーの選択をしなければならない。

2010年時点でのエネルギーの選択は、

- 1.1兆 kWh の発電電力量で、原油換算で3.9億klのエネルギーを消費し、
- 原発の依存度は発電電力量で26%
- 化石燃料への依存度は同じく発電電力量で63%
- 非化石電源、即ち原発と再生可能エネルギーの比率は発電電力量の37%
- エネルギー起源CO₂排出量は10.6億トン、温室効果ガス全体では12.6億トンであった。

エネルギー・環境会議は、シナリオ提示に当たって、現状よりも

- 省エネルギーを進め、エネルギー消費量と電力消費量を減らし、
- 原発依存度を減らし、
- 化石燃料依存度を減らし、
- 再生可能エネルギーを最大限引き上げ、
- これにより非化石電源の比率を上げ、CO₂排出量を削減する

ことを大前提とし、2030年時点でのエネルギー・環境に関する3つの選択肢（原発依存度を基準に、①ゼロシナリオ、②15シナリオ、③20～25シナリオ）を用意する。

エネルギー・環境会議は、これらの3つのシナリオの比較検証を通じて、どのエネルギーをどう組み合わせながら原子力の穴を埋め、どの程度の時間をかけてその依存度を下げていくのか、地球温暖化対策の要請に対して、再生可能エネルギー、省エネルギー、化石燃料のクリーン化といった対策を、どのぐらいの時間とコストをかけて進めていくのか、を問いかけたい。

表1 2030年における3つのシナリオ（2010年との比較）

	2010年	ゼロシナリオ		15シナリオ	20~25シナリオ
		追加対策前	追加対策後		
原子力比率	26%	0% (▲25%)	0% (▲25%)	15% (▲10%)	20~25% (▲5~▲1%)
再生可能 エネルギー比率	10%	30% (+20%)	35% (+25%)	30% (+20%)	25~30% (+15~20%)
化石燃料 比率	63%	70% (+5%)	65% (現状程度)	55% (▲10%)	50% (▲15%)
非化石電源 比率	37%	30% (▲5%)	35% (現状程度)	45% (+10%)	50% (+15%)
発電電力量	1.1兆 kWh	約1兆 kWh (▲1割)	約1兆 kWh (▲1割)	約1兆 kWh (▲1割)	約1兆 kWh (▲1割)
最終エネルギー 消費	3.9億 kl	3.1億 kl (▲7200万 kl)	3.0億 kl (▲8500万 kl)	3.1億 kl (▲7200万 kl)	3.1億 kl (▲7200万 kl)
温室効果ガス 排出量 (1990年比)	▲0.3%	▲16%	▲23%	▲23%	▲25%

※比率は発電電力量に占める割合で記載。
括弧内は震災前の2010年からの変化分。